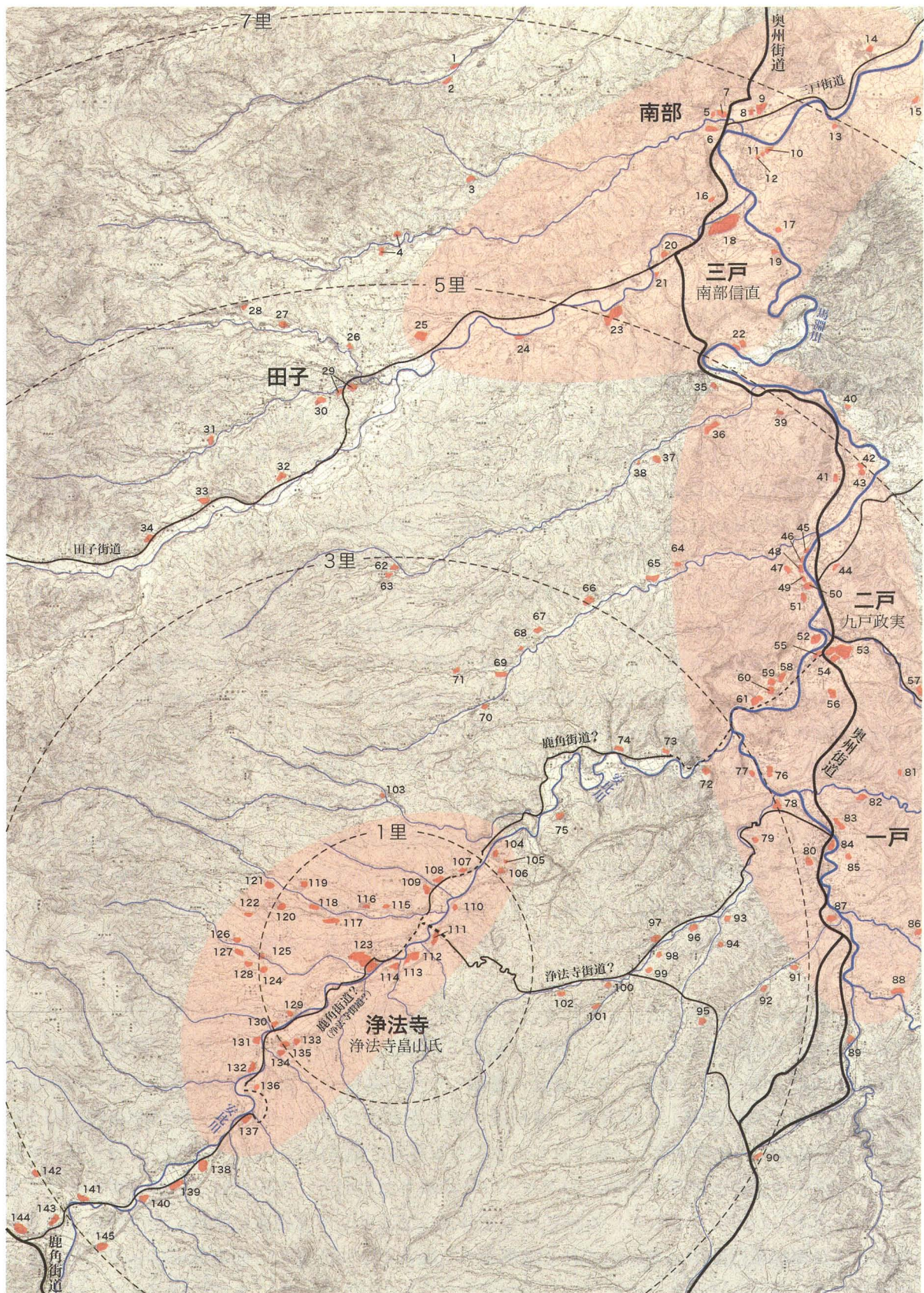


(3) 遺 跡

現在の岩手県二戸郡から青森県三戸郡にかけての中世城館分布を見ると、旧街道や河川沿いに実に多くの館跡が存在している。第90図に当地域における144箇所の城館跡および中世遺跡を示した(註1)。当地域には馬淵川が南から北へと貫流し、その支流である安比川・十文字川・白鳥川・海上川・熊原川等が合流している。平野の少ない当地域ではこれらの川筋に沿って街道が敷かれている(註2)。盛岡方面から奥州街道(奥州道中)が北へと延び、それに脇街道が連結しており、図幅内に示したものでは三戸街道(八戸～三戸)、田子街道(鹿角街道?；三戸～田子～鹿角)、八戸街道(二戸～軽米～八戸)、「鹿角街道」〔浄法寺街道?；二戸～浄法寺～曲田：鹿角街道(盛岡～鹿角)に連結〕、「浄法寺街道」(一戸～浄法寺)などがある(註3)。

図示したとおり、中世城館の分布には「南部・三戸」、「二戸・一戸」、「浄法寺」という三つの中心地域がある。16世紀後葉における三戸の南部信直と二戸の九戸政実ら反信直勢の対立状況の中、安比川流域を支配地としていた浄法寺氏は地理的には九戸勢力圏の側面を衝く位置にあり、三戸南部の対九戸戦略の前線として重要な地域だったとも考えられる。かかる軍事的緊張状況を背景とするためか浄法寺町内には館跡が多く、27箇所の城館が確認されている。そのうち、現時点で調査が行われたものは浄法寺氏居城である浄法寺城(123)、支城である館Ⅱ遺跡(112；不動館)・太田向館(125)および本遺跡「吉田館」(114)のみで、詳細は不明である(註4)。浄法寺の館は安比川沿いの谷底平野が眺望できる高位の段丘面に点在している。浄法寺には二戸・一戸方面と花輪・鹿角方面を結ぶ「鹿角街道」が通り、さらに天台寺南側を通過し、山中を抜けて出ル町を經由して一戸城へと至る「浄法寺街道」もある。浄法寺城(121)を中心とする館はその街道沿いに配置されていたようである。二戸・一戸方面と鹿角方面との交通の要衝である安比川流域を支配していく中で、街道の抑えとして浄法寺氏が一族・郎党を配したものだっただけであろう。浄法寺の狭い河谷は長渡路・八幡館・滝見橋・大清水付近でその幅が極端に狭まり天険要害をなし、その要所へ街道や河川を挟み込むように対向して館が置かれており(註5)、全体として難攻易守の形勢となっている(註6)。吉田館の場合は主たる街道ではないが、東の不動館との連携の下、鹿角街道へと連結する脇街道を防備・監視する役割を負うものだったと推測される。ところで、天正20(1592)年、豊臣秀吉の命により南部領内の48城中36城が「破却」され、浄法寺城も廃城となった。町内に分布する館の多くはこの時点で「破却」されたものと思われ、吉田館は少なくともこの時点で「破却」されたであろう。

今回の調査では、吉田館の館主とされる吉田氏に関して何らの情報も得られなかった。ここで吉田氏に関して若干の補足を加えておく。菅野文夫氏によれば、天正10(1582)年の三戸南部の跡目相続に関する重臣会議(註7)の際、この評定に参加した三戸南部の一族・重臣はおよそ3つのグループに大別される(菅野2006)。東政勝・南長義・北信愛および石亀・毛馬内・楢山の諸氏らの「御一族」、次に後世“甲州御譜第”と称されることとなる石井・桜庭氏ら「譜代の家臣」、そして、下級家臣としての中規模領主庶子や小領主のグループで構成されており、吉田氏はこの第3グループに属していたと考えられる。すなわち、吉田氏は浄法寺氏の庶流として吉田館に依拠した小領主であるとともに、三戸南部家臣団中に組み込まれて南部氏の下級家臣という別の一面を併せ持っていた、ということになる。浄法寺氏は九戸の乱では三戸南部方に立ってはいるがあくまで外様であり、必ずしも利害が完全に一致している訳ではない。南部氏と浄法寺氏の狭間に立って、吉田氏の立場はきわめて微妙なものだったのではないか。天正18(1590)年の九戸の乱において、吉田兵部は九戸勢に組し



*同心円は古田館からの距離



第90図 糠部郡の中世城館・遺跡の分布

第8表 糠部郡の中世城館跡①

No	館名・遺跡名	所在地	備考（城主、遺構など）
1	天王沢館	新郷村	
2	蝦館	新郷村	
3	蛇沼館	三戸町	館主：蛇沼惣左衛門。
4	貝守館・横館	三戸町	館主：貝守弥七郎。横館は出城。
5	小向館	南部町	天正年間、館主：小向小四郎。
6	馬場館	南部町	天正6(1578)年、南部信直が築城。館主：馬場市右衛門。
7	聖寿寺館 (本三戸城)	南部町	南部11代信直～24代晴政、居城。天文8年家臣の放火により焼失。
8	佐藤館	南部町	館主：佐藤氏。
9	<small>ひらねさき</small> 平良ヶ崎城	南部町	建久3(1192)年、南部光行が築城。
10	大向館	南部町	南部氏居館。
11	蝦夷館	南部町	南部氏居館。
12	中山構	南部町	南部氏居館。
13	赤石館	南部町	天正年間(1573～92年)。館主：桜庭安房の居館。
14	相内館	南部町	建久2(1191)年。南部光行の仮陣屋。「一夜堀」の伝承あり。
15	上名久井館	南部町	館主：名久井（工藤）氏 → 東氏（南部一門）？
16	川守田館	三戸町	館主：川守田正応。平場、堀。
17	泉山館	三戸町	館主：泉山古康(南部信直の舅)。堀。
18	三戸城	三戸町	南部26代信直が完成。16世紀後半以降、南部宗家の居城。
19	梅内館	三戸町	館主：梅内氏（北氏一族）。
20	金堀館	三戸町	館主：石沢善三郎。
21	京兆館	三戸町	館主：岩館右京？
22	目時館	三戸町	館主：目時筑前。
23	豊川館	三戸町	館主：豊川又右衛門。
24	斗内館	三戸町	館主：斗内氏。
25	日ノ沢館	田子町	館主：日ノ沢弥左衛門？平場、堀。
26	<small>なごこ</small> 種子館	田子町	館主：種子陣左衛門。
27	馬場館	田子町	館主：佐々木氏？
28	清水頭館	田子町	
29	田子館	田子町	館主：佐々木惣左衛門。南部信直、宗家継承前の居所。
30	蝦夷館	田子町	
31	相米館	田子町	館主：相米氏。
32	原館 (工藤館)	田子町	館主：原氏。
33	石亀館	田子町	館主：石亀氏。
34	茂市館	田子町	館主：茂市惣七。
35	釜沢館	二戸市	館主：小笠原（釜沢）氏。九戸の乱で落城。岩埋文調報455・490集。
36	<small>かいしょう</small> 海上館	二戸市	堀切。
37	月折館	二戸市	堀切、平場、空堀。
38	荒谷館	二戸市	堀切。
39	野々上館	二戸市	堀切。

No	館名・遺跡名	所在地	備考（城主、遺構など）
40	下山井館	二戸市	
41	四戸館 (金田一城)	二戸市	堀、曲輪、土塁。上・中・下館の3館。四戸氏、切田氏、金田一氏。
42	沖 I	二戸市	堅穴建物跡1。岩埋文調報152集。
43	ハツ長Ⅱ	二戸市	堅穴建物跡7。岩埋文調報168集。
44	堀野館 (小四郎館)	二戸市	空堀、平場。館主：堀野氏。
45	長瀬 D	二戸市	堅穴建物跡1。岩埋文調報22集。
46	長瀬 C	二戸市	堅穴建物跡。岩埋文調報22・51集。
47	佐々木館 (米沢館)	二戸市	館主：佐々木氏。堀。
48	沢内 B	二戸市	堅穴建物跡4。岩埋文調報7集。
49	家の上	二戸市	堅穴建物跡1。岩埋文調報35集。
50	<small>まいざね</small> 米沢(エンダテ)	二戸市	岩埋文調報376・402集。
51	下村	二戸市	堅穴建物跡3、掘立柱建物（中・近世）。岩埋文調報323集。
52	中曾根	二戸市	二戸市教委調査。
53	<small>くのへ</small> 九戸城	二戸市	九戸氏居城。曲輪、堀、土塁、建物跡など。二戸市教委調査。
54	在府小路	二戸市	掘立柱建物跡、溝跡、陶磁器。九戸城関連。二戸市教委調査。
55	橋場	二戸市	土塁（損壊；九戸城主土塁の一部）。二戸市教委調査。
56	村松館	二戸市	
57	坂本館 (白鳥館)	二戸市	曲輪、堀。
58	諏訪前	二戸市	鎌倉時代の居館跡。堀、堀、橋。岩埋文調報394集、二戸市教委調査。
59	石切所館	二戸市	平場、堀。
60	上里	二戸市	堅穴建物跡1、堀。岩埋文調報55集。石切所館と関連か。
61	蒼前館	二戸市	堀。
62	根森館	二戸市	堀、平場。四戸氏家臣の根森氏。
63	根森松屋敷館	二戸市	堀、平場。
64	<small>しもとまい</small> 下斗米館	二戸市	曲輪、堀。館主：下斗米氏。
65	<small>かみとまい</small> 上斗米古館	二戸市	
66	田中館	二戸市	館主：田中館正孝。曲輪、堀。
67	上斗米館	二戸市	館主：上斗米氏。
68	前田館	二戸市	
69	米田館	二戸市	曲輪、堀。
70	<small>たきざわ</small> 足沢館	二戸市	館主：足沢氏（四戸一門）→九戸の乱直前、浅野家臣・浅野重吉居館。
71	本田館	二戸市	
72	櫓館	二戸市	堀、平場。
73	<small>にたどり</small> 似鳥館	二戸市	館主：似鳥左近。九戸方。
74	大向館	二戸市	
75	<small>ふくだ</small> 福田館	二戸市	館主：福田掃部。九戸方。
76	鳥越館	一戸町	
77	八木沢館	一戸町	曲輪。
78	樋ノ口館	一戸町	複郭。

第9表 糠部郡の中世城館跡②

No	館名・遺跡名	所在地	備考（城主、遺構など）	No	館名・遺跡名	所在地	備考（城主、遺構など）
79	小滝館	一戸町	曲輪、腰曲輪、堀。	113	不動館	二戸市 旧浄法寺町	4郭（館Ⅱ遺跡含む）。空堀、土塁。
80	西法寺館 （マ館）	一戸町	館主：西法寺氏。九戸方。複郭、堀。	114	吉田館 （カイ館）	二戸市 旧浄法寺町	館主：吉田兵部。浄法寺町教委調査。報告遺跡。
81	松嶺館	一戸町		115	荒谷館 （メカケ館）	二戸市 旧浄法寺町	館主：荒谷孫右衛門。方形館。空堀。
82	槇山館	一戸町	館主：槇山氏。九戸方。曲輪、堀。	116	江牛館	二戸市 旧浄法寺町	「フン館」。
83	一戸城	一戸町	北館、八幡館、神明館、常念館の総称。館主：一戸氏。一戸町教委調査。	117	小船向館	二戸市 旧浄法寺町	
84	野田館	一戸町		118	アイヌ館	二戸市 旧浄法寺町	
85	上野	一戸町	帯曲輪、堅穴建物跡。岩埋文調報359集。一戸町教委調査。	119	里川目館	二戸市 旧浄法寺町	単郭。空堀。
86	根反館	一戸町	館主：根反弥左衛門。平場、堀。	120	田子内館	二戸市 旧浄法寺町	単郭。空堀。
87	老ヶ館	一戸町	曲輪、腰曲輪、堅堀。	121	細田向館	二戸市 旧浄法寺町	
88	姉帯城	一戸町	館主：姉帯兼政（九戸氏一族）。天正19年落城。一戸町教委調査。	122	深堀館	二戸市 旧浄法寺町	館主「セキヨジエモンタメノスケ」。
89	五月館	一戸町	館主：小鳥谷拱津（九戸の乱で姉帯城に籠城）。岩埋文調報424集。	123	浄法寺城	二戸市 旧浄法寺町	浄法寺氏の居城。曲輪、堀、掘立柱建物など。町教委調査。
90	新館林館Ⅱ	一戸町		124	太田館	二戸市 旧浄法寺町	館主：太田氏（浄法寺一族）。空堀。
91	女鹿館	一戸町	館主：女鹿長俊。曲輪、腰曲輪、堀。	125	太田向館	二戸市 旧浄法寺町	方形館。浄法寺町教委調査。掘立柱建物、堅穴建物、空堀など。
92	女鹿沢内館	一戸町		126	上杉沢館	二戸市 旧浄法寺町	方形館。空堀、土塁。
93	中里館	一戸町	館主：中里大弼。複郭、堀。	127	小杉沢館	二戸市 旧浄法寺町	2郭。空堀。
94	小友館	一戸町	曲輪、堀。館主：月館氏。浄法寺氏一族の居館とも云われている。	128	タテシロ館	二戸市 旧浄法寺町	
95	半在家館	一戸町		129	大森館	二戸市 旧浄法寺町	館主：大森氏。平場、腰曲輪、空堀。梁部1971・文化庁1984等に記載があるが、県遺跡台帳には登録されていない。
96	月館館	一戸町	館主：月館隠岐左兵衛。複郭、二重堀。	130	小泉館	二戸市 旧浄法寺町	
97	樋投館	一戸町	単郭、平場、堀	131	下谷地館	二戸市 旧浄法寺町	
98	月館中坪Ⅱ	一戸町	陶磁器、単郭、堀、土塁。	132	大清水館	二戸市 旧浄法寺町	館主：大清水氏。3郭。空堀。
99	内ノ沢館	一戸町		133	五庵Ⅱ	二戸市 旧浄法寺町	堅穴建物20、住居状2、掘立柱建物1。岩埋文調報94集。
100	家向館	一戸町		134	五庵Ⅰ	二戸市 旧浄法寺町	堅穴建物跡。岩埋文調報97集。
101	岩清水館	一戸町	単郭、三重堀	135	駒ヶ嶺館	二戸市 旧浄法寺町	連郭。堀。駒ヶ嶺氏（浄法寺一族）。
102	出町館	一戸町	館主：出町与次郎。曲輪、堀。	136	柿ノ木平館	二戸市 旧浄法寺町	単郭。空堀。
103	川又館	二戸市 旧浄法寺町	館主：川又主殿。3郭？。空堀。	137	下藤館	二戸市 旧浄法寺町	丘陵先端の単郭。腰郭、空堀。
104	長渡路館	二戸市 旧浄法寺町	2郭。空堀。	138	下ノ田館	八幡平市 旧・安代町	
105	エゾ館	二戸市 旧浄法寺町	丘陵先端の単郭。空堀。	139	北ノ城館	八幡平市 旧・安代町	堀。岩埋文調報438集。
106	長流部館	二戸市 旧浄法寺町	単郭。空堀（二重堀）。	140	八幡館	八幡平市 旧・安代町	
107	漆沢館	二戸市 旧浄法寺町	館主：漆沢弾正。単郭、空堀。	141	五日市館	八幡平市 旧・安代町	
108	宮沢館	二戸市 旧浄法寺町	方形館。全周する空堀。	142	目名市館	八幡平市 旧・安代町	
109	松岡館	二戸市 旧浄法寺町	方形複郭、空堀。 館主：松岡尾張（浄法寺一族）。	143	有矢野館	八幡平市 旧・安代町	堅穴建物跡。岩埋文調報303集。
110	コアスカ館	二戸市 旧浄法寺町	天台寺範囲内。浄法寺町教委調査。 堀？（未報告のため詳細不明）。	144	上の山館	八幡平市 旧・安代町	堅穴建物跡。岩埋文調報40集。
111	飛鳥台地Ⅰ	二戸市 旧浄法寺町	堅穴建物3。岩埋文調報120集。	145	小屋畑館	八幡平市 旧・安代町	
112	館Ⅱ	二戸市 旧浄法寺町	曲輪、堀、大溝、土塁、堅穴建物跡、掘立柱建物跡など。不動館の東郭部分に相当。岩埋文調報497集。				

て行動したことは史料にあり、史実らしい。先の評定の際に吉田氏がどういう立場に立ったのかわからないが、信直の三戸南部家督相続後何れかの時点で九戸方へと転向したものと思われるが、はたして宗家である浄法寺畠山氏の意図が働いたものだったのであろうか。浄法寺氏は九戸の乱では信直派に立ったが、終始一貫信直を積極的に支援した訳ではなく、南部と九戸を天秤にかけて不透明な情勢

の中で生き残りを図る日和見的姿勢も垣間見える。ともあれ吉田兵部は九戸城籠城者のリストには見当たらず、乱後の吉田氏の動向については具体の資料を欠くため詳らかではない。三戸南部の下級家臣でありながら信直に造反したことから、おそらくは領地没収・断絶となったものと推測できる。今回の調査では館破却（城割り）について、S D02・04の埋没状況等にそれらしき痕跡が見られるものの明確ではない。なお、近世以降も本遺跡が生活の場として利用されていたことは出土遺物から跡付けられるが、はたして吉田氏ないしはその末裔が居住していたものか定かではない。

註

- 1) 抽出に際して複数の文献を参照したが、文献による記載の有無があるもの、名称のみで内容不詳なものもあるが、その「館」も便宜的に一括して示している。
- 2) 街道の道筋は、『岩手県「歴史の道」調査報告』（岩手県教委 1979・1980・1981）、『奥州街道』（2002）、『北奥路程記』（岩手県文化財愛護協会 2002）、『二戸郡誌』（1977）等を参照し、一部については推定の上、作図した。
- 3) 街道の名称についてはそれぞれの地域で異なっており、一定していない。「鹿角街道」や「浄法寺街道」についても具体的にどの街道を指すのか、史料により異同がある。『二戸郡誌』（1977）によれば、「浄法寺街道」とは、一戸と浄法寺を結ぶ街道で、一戸・鳥海から浄法寺御山へ越えて浄法寺宮沢で鹿角街道（現・県道二戸五日市線）へ合流するものである。全長三里二十九町（約 14.86 km）、幅二～四間（約 2.6～7.3 m）の大道で、菅江真澄が一戸へと辿った道である。一方、『北奥路程記』では、二戸福岡から荒屋曲田（現八幡平市）へ至る、全長 8 里 34 町（34.91 km）、幅員 2 間（2.6 m）の道、現在の県道を「浄法寺街道」と称している（岩手県教委 1981）。ここでは、江戸時代の絵図の記載等を参照して、前者の説を採って便宜的に浄法寺街道と呼ぶこととする。なお、この「浄法寺街道」沿いには、月館館（96）、岩清水館（99）、中里館（93）、小友館（94）など多くの城館が配置されており、浄法寺を経由して鹿角方面と一戸・二戸方面を結ぶ当街道の重要性が窺い知れる。
- 4) 太田向館は旧太田小学校校舎建設に先立って平成 2 年に調査が行われた。調査成果については未報告であるが、分布調査報告書中の記述を参照すると丘陵基部を堀切した連郭式城館であり、掘立柱建物・堅穴遺構・堀などが検出されたい（浄法寺町教委 1991）。掲載されている航空写真を見る限りにおいては、複数条の堀と柱穴多数が確認できる。また、「館」といえるのか不確かではあるが、天台寺別当桂寿院屋敷跡と伝えられるコアスカ館が旧浄法寺町教委により調査されており、縄文時代草創期の爪形土器が出土したことは広く知られる。（中村 2000）。しかし、中世？を含む調査の詳細は未報告であり不明である。伝聞によれば、堀が検出されているとのことである。
- 5) 浄法寺城－吉田館－不動館、松岡館－宮沢館などで見られる。
- 6) 沼館、前掲書、197～198 頁。
- 7) 浄法寺氏がこの評定に参列したとする史料があることから、筆者は館Ⅱ遺跡報文（岩手県埋文 2006）において浄法寺氏がこの評定に参加していたと述べたが、正しくない。ここで訂正する。南部氏下級家臣であった吉田氏とは異なり、浄法寺氏は三戸南部の一族でも家臣でもないことから参列した可能性は低く、上記史料は後世の脚色である可能性が高い。

参考文献

* 紙幅の関係で参照した調査報告書の大部分は割愛した。

青森県	2000	『青森県史 資料編 考古 4』
青森県教委	1983	「青森県の中世城館」『北海道・東北地方の中世城館①北海道・青森・秋田』東洋書林、所収
一戸町教委	2007	『奥州街道調査報告書』一戸町文化財調査報告書第 59 集
岩手県	1961	『岩手県史 第 3 巻』
岩手県教委	1979	『奥州道中』、『鹿角街道』岩手県「歴史の道」調査報告
岩手県教委	1981	『浄法寺・八戸街道』岩手県「歴史の道」調査報告
岩手県教委	1986	『岩手県中世城館跡分布調査報告書』岩手県文化財調査報告書第 82 集
岩手県埋文	2006	『館Ⅱ遺跡発掘調査報告書』第 497 集

- 菅野文夫 2006 「中世糠部の一断面」 細井計・編『東北史を読み直す』吉川弘文館
- 栗村知弘・佐々木浩一 2001 「根城跡」 藤木・伊藤編『城破りの考古学』吉川弘文館
- 佐々木浩一 2001 「柱穴群から建物跡へ」『掘立と堅穴 中世遺構論の課題』東北中世考古学会編、高志書院
- 佐々木浩一 2002 「扇の要」『海と考古学とロマン』市川金丸先生古希記念献呈論文集
- 浄法寺町 1997 『浄法寺町史（上巻）』
- 浄法寺町教委 1976 『浄法寺町史（資料編）』
- 浄法寺町教委 1991 『岩手県二戸郡浄法寺町 遺跡詳細分布調査報告Ⅰ（大字浄法寺地区）』
- 浄法寺町教委 1996 『浄法寺町遺跡地図（1995年版）』
- 浄法寺町教委 1998 『浄法寺城跡 平成9年度町内遺跡詳細分布調査概報』
- 中村 裕 2000 「コアスカ館」『岩手未来への遺産 遺跡は語る 旧石器～古墳時代』岩手日報社
- 二戸市 2000 『二戸市史 第1巻』
- 二戸郡誌編集委員会 1977 『二戸郡誌（縮刷版）』名著出版会
- 八戸市教委 1996 『根城 本丸の発掘調査』八戸市埋蔵文化財調査報告書54集

4 ま と め

調査成果は次のとおりである。

①吉田館遺跡は縄文時代、古代、中・近世の複合遺跡である。

②縄文時代においては、後期の堅穴住居跡を複数棟検出し、それにともなう後期後葉の遺物が出土したことから、該期の集落跡であることが確認された。また、早期～前期前半と推測される住居跡状の堅穴遺構を検出するとともに、少量ながら早・前期の遺物が出土しており、該期の集落跡である可能性がある。

③中掘浮石層より下位で石器素材剥片の埋納遺構（デポ）を検出し、出土剥片から接合資料8点が得られた。層位から縄文時代早期～前期前半に属するものと推定される。掘り込みを伴うデポは類例の少ない遺構であり、貴重な資料を追加できた。

④古代については遺構が検出されず、少量の土師器・須恵器が出土したのみであるが、本来は該期の遺構が存在していた可能性は高い。

⑤城館にともなう普請・作事の遺構が検出され、ごく少量ではあるが中世の陶磁器・古銭が出土したことで、当遺跡が16世紀代を中心とする中世城館跡であることが確認された。2段3面の平場で検出された遺構は、空堀、切岸、虎口、土橋〔以上は普請〕、掘立柱建物跡、堅穴建物跡・堅穴遺構、柱穴列（柵跡）、門跡、溝跡（堀跡）、柱穴群〔以上は作事〕がある。

⑥上段平場の夥しい柱穴は、吉田館が長期に亘る城館であったことを示唆している。上段平場では多数の掘立柱建物が重複しており、数段階の縄張変遷が存在していることは確実であるが、今回は詳細を明らかにできなかった。

⑦空堀や虎口についてはその堆積土の様相から、人為的な埋め戻し行為が想定される。これは館の破却、いわゆる「城破り」が行われた所産ではないかと推測される。

⑧本遺跡の城館「吉田館」の館主が吉田氏であることを積極的に裏付ける確証は得られなかった。